

Q. 行政の文化化向上を期待する

A. 豊かな自然とあふれる笑顔を目指し一步一步前進する

Q. 小中学生の虫歯予防に「フッ化物洗口」を取り入れては

A. 保護者説明を行い、前向きに検討する

質問 移住者による開拓時代、高度成長期における発展の時代を経て、今は人口減少、少子高齢社会にあり、自治体も交付税減少を受け厳しい財政運営を強いられている。このような状況を乗り越え、特色ある町として生き残るため、町長が提案した美しいまちづくり条例で謳う「一人ひとりの知恵と創意により、町民と町とが協働して美しいまちづくりを実現する。」とするように努めることが大事である。つまりは、新たなまちを創造していくことを目指すことにほかならない。このさい、まちづくりに大きく影響

行政の文化化向上を



青田 良一 議員

する行政全般をもう一度見直し「行政の文化化」を向上させるよう配慮し、創造するまちづくりをより一層推進すべきと思うが町長の考えを伺う。

町長 「まちづくり」の考え方や方向性、愛郷心に改善点があれば真摯に対処したい。「町民の花植栽」「通学路の景観充実」「行政区文化づくりへの支援」等々はいずれも美しいまちづくりの取り組みであり、今後も充実した支援や協働に配慮し推進する。新たな総合計画（10力年）において「豊かな自然とあふれる笑顔」をまちづくりのキーワードとしたので、町民各層の理解と協力をいただきつつまちづくりを進めたい。

行政の文化化とは

行政全般にわたり、ハード、ソフトの両面から、職員一人ひとりが日常の仕事を見直し、町民にうるおいややすらぎをもたらすよう配慮し、全体の奉仕者であるという認識を高め、日常の仕事に取り組むこと。

学校におけるフッ化物洗口



安中 経人 議員

質問 小中学校における虫歯予防状況について伺う。その上で、虫歯予防対策として「フッ化物洗口」を検討し、実施してはどうか。

教育長 小学6年生の虫歯罹患状況は、全国平均値をやや上回っている。フッ化物洗口について北海道では、フッ素に対する誤解から全国に比べて低いのが現状である。平成21年第2回の道議会において、「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が議決された。この条例に沿った対策の一環として、虫歯予防に有効なフッ化

物洗口が小中学校で急激に増えてきている。

空知管内でも19市町、全道においては131市町村が実施済みとなっている。

現在、本町は実施していないが、今後、保護者説明を経て合意形成を考えている。

8020条例の趣旨を子ども段階から周知していくことは重要であり、歯科医師や薬剤師、保健所はもとより、町の保健師などと連携し健康づくりの一環として取り組みを推進していく。

フッ化物洗口は、誤飲のない安全な環境で実施すべく、教職員の研修、保護者の理解に努めてから実施する。

8020条例

自分の歯が20本以上あれば、ほとんどのものがおいしく食べられ、喰いしぼる力で元気良く運動もできる。

80歳になっても自分の歯を20本以上保とうとする8020運動を推進する条例。